

IDECA 株式会社
2026 年 3 月期 上期決算説明会 質疑応答要旨
(2025 年 11 月 7 日開催)

Q. 2Q の受注高は回復しているように見えるが、3Q、4Q と回復傾向が続いているのか。

A. 受注高は流通在庫の正常化に伴い、各エリアで徐々に回復傾向となっている。

EMEA は 1Q に落ち込んだこともあり、2Q は 1Q 比で回復しているものの、欧州の経済状況が抜本的に良くなっているわけではないため、そこまで強い状況ではない。特殊車両業界が落ち込んでいたが、徐々に案件が増えて受注の回復につながっており、下期以降に今以上悪化するとは見ていない。

その他業界についても、大きな見通しの変更はない。流通在庫の正常化に伴い、受注が回復傾向となっており、下期もその状況に変わりはない。

Q. 2Q に営業利益率が 12.4% に大きく上がっているが、一時的な要因があるのか。

この高い利益率を、今後も維持できるか。

A. 1Q は米国のロジスティクスセンターの立ち上げ遅れの影響があったため、想定よりも売上が減少したが、その分を 2Q に回復したため、この売上回復分が特殊要因として含まれている。2Q 以降も受注は回復傾向であり、業績は安定的に推移していくと想定している。

Q. 通期計画を据え置いているが、下期にリスクを予想しているのか。

下期の計画が保守的な理由はあるか。

A. 1Q の米国ロジスティクスセンターの立ち上げ遅れと 2Q の回復という特殊要因が含まれているが、全体として 1Q から 2Q にかけて回復傾向となっており、下期に大きく落ち込む想定はしていない。

まずは通期の予想を達成していく。

Q. 上期と比べて下期に増えるコストはあるか。

A. 米国の売上は堅調に推移しており、計画でも大きく投資をして成長を見込んでいることから、

方針に変更はない。

一方、構造改革の一部として前期にグループ会社の株式譲渡や、セカンドキャリア支援制度の拡充を行っていることから、下期にコストの減少を見込んでいる。

成長市場への投資は下期の方が増えるが、固定費の削減があるため、トータルとして大きく変わるものではない。

Q. 下期で伸びる分野、エリアは。

A. 中国と米国は比較的安定しており、受注も堅調に右肩上がりとなっている。

中国はインフラ系、米国はデータセンター向けの分野が伸びている。

伸びている分野に集中し、受注を確保するように活動している。

Q. 現在推進中の改革プロジェクトによって、プラス効果が出ていることはあるか。

- A. 社内でいくつかの改革プロジェクトを同時推進しており、今回はその中から 3 つ紹介した。
- サプライチェーンについては、グローバルでどのように運用すれば、最もリードタイムを削減し、在庫効率を向上できるかをゼロベースで検討している。今よりも 20-30% は在庫を減らすことができると考えている。
- 開発に関するプロジェクトでは、開発プロセスを変えたため、重要な開発プロジェクトにリソースを割くことで、スピードアップさせることができている。

Q. 米国の関税や為替は、どの程度業績に影響しているのか。

- A. 上期業績に、関税の影響として 4 億円程度売上に含まれている。
- 為替については、ユーロに対して円安となっているため、売上に 4 億円程度影響している。

Q. 棚卸資産が増加しているが、今後の見通しについて。

- A. 欧州の景気動向や、関税による需要の変動といった不安定な外部環境の要素で、需要予測とのギャップがあった。また、今後の需要拡大に向けて供給量を増やしていくために、在庫を確保していくことも想定しているため、棚卸資産に影響が出てるが、今後需要が回復していく中で計画的に消化していくと考えており、期末に向けて安定して減少していくと想定している。

以上